

## [ 卷 頭 随 想 ]

### 日本ブドウ・ワイン学会山形大会に寄せて

濱田 淳

元駐日米国大使のエドウィン・ライシャワーは「山の向こう側には、もう一つの日本がある」と山形を評した。山形は、まさに日本の伝統文化の宝庫である。

厳冬の大雪に行われる黒川能は長い間、庄内の黒川村の村民によって守られている。出羽三山の羽黒神社は山伏の山岳信仰の中心として、現在も修験者が集う。

このように、まさに日本の原風景を残している数少ない地方である。

さて、山形のブドウ栽培の歴史は古く、江戸時代にさかのぼることが出来る。室戸台風（1934年）で南陽市の赤湯地区にあった樹齢百二十年の甲州種のブドウの木が被災して枯れたとの記録がある。

上杉の藩校の流れを受け継ぐ興譲館英学舎（当時珍しく英学を行っていた）の英国人・英語教師のチャールズ・ダラスの日記によれば、明治四年にこの地方でワインづくりが行われた。「この地方で初めて、ワインが作られた。決して美味しいものではないが、毎年製造するほどの商業的価値はあった。」と書かれている。

（元米沢興譲館高校教諭 松野良寅先生より）

米沢の上杉藩と甲斐の武田家とは不思議な因縁がある。来年、大河ドラマで放映される直江兼続が葬られている米沢の春日山林泉寺には、上杉家の代々の藩主の夫人が葬られている。その中で際立って大きな墓石（実家の格式によって大きさが違う）に甲州夫人のものがある。甲州夫人とは上杉謙信の養子の景勝の正室である。武田信玄の四女菊姫が、武田勝頼が滅亡するとき、信玄の遺言により上杉を頼ってきて景勝の正室になった。歌舞伎の「八重樫姫」の物語である。その後、七男清信も家来を連れて千二百石の厚遇をうけた。

私見ではあるが、このことが山形のブドウ栽培に深く関わっていると推測している。

この山形で「日本ブドウ・ワイン学会」を7月12日に開催することになる。是非山形に足を運んで、多くの皆様に山形の風土を感じとってほしい。

私たち11社のワイナリーが皆様とお会いするのを楽しみにしている。（山形県ワイン酒造組合理事長）



上杉景勝公肖像  
(所蔵者名「米沢市」)



直江兼続肖像  
(所蔵者名「米沢市」)